



大阪インターナショナルチャーチ ジョセフ・トッティス牧師

2013/02/24

独身でいること：デート・交際・満足

1 テモテ 6:6 しかし、満ち足りる心を伴う敬虔こそ、大きな利益を受ける道です。

この一ヶ月間、私たちは独身でいることについてともに学んできました。聖書によると、独身でいても大丈夫であることがわかりました。事実、独身でいることは賜物であり良いことだと、使徒パウロは言っています。神があなたにぴったりの人をどこかに備えてくださっているなら、その理想の相手は肉体的、精神的、そして霊的にもふさわしい相手だとも学びました。ここまで学んで、次のステップに進めそうだと感じている人が今ここにいるかもしれません。誰か意中の相手をみつけて、その人は見た目も好みで、いっしょにいると楽しくて、クリスチャンだとします。さて、ここからどうするべきでしょうか。デートに誘うのか、真剣な交際をするのか、それとも待つのか。クリスチャンとして次に取るべき行動は何でしょう。

デートや交際について聖書は何と言っているのでしょうか。実は、なんとも言っていない。そのような単語は聖書に登場しません。デートや交際についてとくに取り上げられていないのです。とは言え、結婚前の時期についてクリスチャンが基準にすべき原則はあります。いくつか挙げるなら、不信者とつり合わないくびきをともしない(2コリント6:14)、婚前交渉はしない(使徒15:20; 1コリント5:1; 6:13, 18; 10:8; 2コリント12:21; ガラテヤ5:19; エペソ5:3; コロサイ3:5; 1テサロニケ4:3; ユダ7)があります。

また、将来結婚して夫または妻になったら、自分にどのような役割があるのかを聖書から学んで知る必要があります。例えば、

エペソ 5:23 なぜなら、キリストは教会のかしらであって、ご自身がそのからだの救い主であられるように、夫は妻のかしらであるからです。

1コリント 11:3 しかし、あなたがたに次のことを知っていただきたいのです。すべての男のかしらはキリストであり、女のかしらは男であり、キリストのかしらは神です。

男性は、霊的リーダーです。男女ふたりの関係は、すべての点においてキリストに栄誉を帰するものでなければなりません。それをするのは、男性の責任です。残念ながら、神に与えられた責任を女性に委ねている男性が今日たくさんいます。

時代錯誤と思われるかもしれませんが、近頃の男性はもっと男らしくあるべきです。霊的に女々しくてはいけません。

エペソ 5:25 夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。

女性の皆さん、あなたは追いかけて当然の存在です。口説かれ、ロマンチックに接してもらうべき人なのです。あなたは神の娘、王女なのですから、それにふさわしい扱いを受けるべきです。

はっきり言います。キリストは私たちが愛して追い求めてくださいます。同じようにその男性が今あなたを愛して追い求めていないなら、結婚したからと言って変わるのでしょうか。

自分を安売りしないでください。神の最善の人が、世間の人と同じようにあなたを扱うことはありません。妥協は禁物です。

女性は、結婚を考えている相手の男性について次のようなことを考えなければなりません。その男性は、主が望まれるほうへと家族を導くような信仰の深さと献身を持ち合わせているのでしょうか。霊的なことについて、リーダーシップを取ってくれる人でしょうか。同様に、男性も妻の候補として挙げている女性について考えなければなりません。その女性は、聖書に書かれた妻の役割を理解しているのでしょうか。

もうひとつ考慮すべきことは、キリストのうちに満ち足りた人かどうかです。

2コリント 3:5 何かを自分のしたことと考える資格が私たち自身にあるというわけではありません。私たちの資格は神からのものです。

神を信じる私たちは、主の満たしを頼りにすることで、自立できるのです。結婚すれば一人前になれる、というのは間違っています。

私はエイミーを愛していますが、私を完全に満たしてくれるのはエイミーではありません。それはキリストです。

こんな例えがおもしろいかもしれません。

イエスさまは私のパフェです。もうすでにパフェのカップはいっぱいに詰まっています。他のものはぜんぶトッピングです。人生のいろいろな賜物はホイップクリームで、エイミーはもちろん一番上に乗っているさくらんぼです。皆さんはトッピングのナッツですね。それは冗談です。

冗談はさておき、誰かを「自分のすべて」だとか人生で一番大切なものだとか言ったり思ったりするのは、聖書の言う偶像礼拝です。それは罪です。

これは、結婚相手の候補を吟味するのに適切な問いです。その人は神のうちに満ち足りた人ですか。神がその人のすべてででしょうか。あなたを愛する以上に、神を愛し続ける人でしょうか。

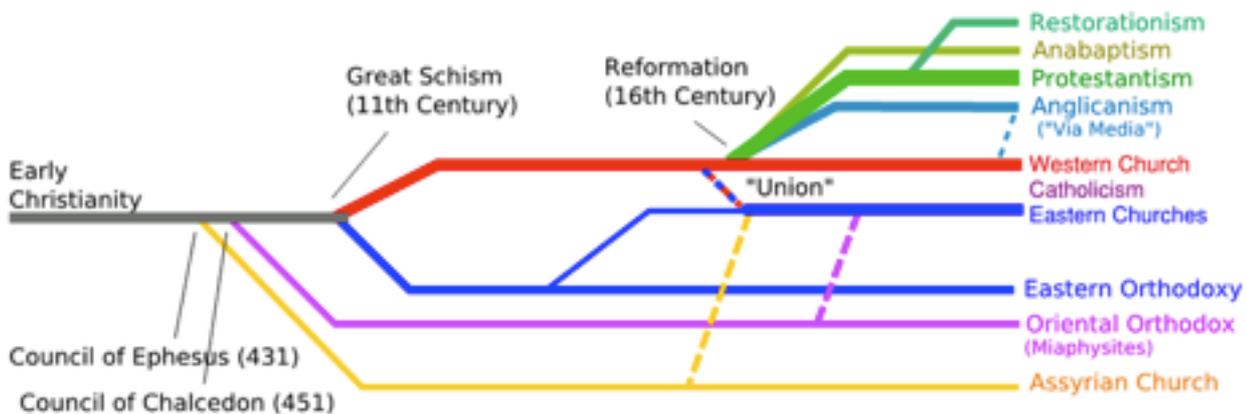
ずいぶんハードルが高いと思いますか。そのとおり、ハードルは高いです。クリスチャンだからといって誰でもあなたに合う人ではないのです。

どういう意味でしょう。クリスチャンならいいのではないのでしょうか。

実は、「つり合ったくびき」という考え方は、「あの人はクリスチャンかどうか」という単純なレベルの話ではありません。

皆さんもご存じの通り、キリスト教の信仰にも多くの解釈があります。ウィキペディアによると、キリスト教には約41,000の教派・教団があるといえます。

Major branches within Christianity



ここで湧く疑問は、「違った教団のクリスチャンは結婚すべきか」というものです。お互いがイエス・キリストを救い主として受け入れているなら、聖書的にその結婚を禁ずる理由はなにもありません。

ただし、問題や争いの可能性をはらんでいないとは言えません。互いの教理に目立った違いがある場合、結婚生活の中にも大きな意見の相違が出てくるでしょう。見解の違いとして片づけることはできても、それは臭いものにふたをしているだけです。

そこに問題が存在するという事実は変わりませんし、一旦ふたを開けると、収集がつかなくなります。

自分の信仰を妥協して、心から賛同できない教えについていくことはできますか。

41,000の教派・教団は無駄にできあがったわけではありません。何世紀にもわたって教会を分派・分裂させた数々の大論争があるのです。教会を分裂させるような問題なら、あなたの家庭も分裂させないとは限りません。

見解の違いとして片づけても、一致は生まれません。率直に言えば、それは分裂です。一例が使徒の働きにあります。第二次宣教旅行の出発前に、パウロとバルナバの間で大きく意見が分かれました。二人は親しい友達、ともに敬虔で、神に導かれた人です。けれども何が起こったでしょう。分裂です。二人は仲たがいで別々の道を行きました。

アモス 3:3 ふたりの者は、仲がよくないのに、いっしょに歩くだろうか。

イエスはこうおっしゃいました。

マタイ 12:25b 「どんな国でも、内輪もめして争えば荒れすたれ、どんな町でも家でも、内輪もめして争えば立ち行きません。

もちろん、「私たちは分裂しませんでした。意見の相違を解決して、今では一致しています」という人もいるでしょう。でもそうでしょうか。どちらかが降参しただけではありませんか。

たいていの場合、一方が意見を断固言い張る人です。相手はどちらかという波風を立てたくない平和主義な人です。すると、その人は平穏を保つために降参してしまいます。本人は自分でも気付かないうちに相手に合わせているのですが、自分の信仰を妥協する度に、心の中では少しずつ信頼が損なわれていくのです。

人の目をごまかすことはできます。相手が配偶者であってもそうです。けれども、どんなときも神の目をごまかすことはできません。信仰の妥協はキリストとの歩みに影響を及ぼし、ついには結婚生活にもそれが表れてきます。

もちろん子育てについてもそうです。子どもたちに同じ教理を教えることができる程度の信仰の一致がふたりにありますか。そういったことも考慮に入れなくてはなりません。キリスト教の基本的な教理を知っていること、そして一致していることは、神をたたえる結婚生活や家庭生活を築こうとするふたりにとって極めて重要なことです。これはキリスト教の中で違った教派・教団に属する場合について話しているのです。言うまでもなく、キリストを心から信じる信徒は、自称クリスチャンのカルト教団や偽宗教の人と結婚するべきではありません。

ローマ 16:17 兄弟たち。私はあなたがたに願います。あなたがたの学んだ教えにそむいて、分裂とつまずきを引き起こす人たちを警戒してください。彼らから遠ざかりなさい。

ローマ 16:18 そういう人たちは、私たちの主キリストに仕えないで、自分の欲に仕えているのです。彼らは、なめらかなことば、へつらいのことばをもって純朴な人たちの心をだましているのです。

自分はクリスチャンだと言うからと言って、本当にクリスチャンだとは限りません。言うは易しです。行動は言葉より雄弁です。つまり、クリスチャンだと言うなら、それを態度で示してください、というわけです。

イエスはおっしゃいました。

マタイ 15:15 そこで、ペテロは、イエスに答えて言った。「私たちに、そのたとえを説明してください。」

マタイ 15:16 イエスは言われた。「あなたがたも、まだわからないのですか。」

マタイ 15:17 口に入る物はみな、腹に入り、かわやに捨てられることを知らないのですか。

マタイ 15:18 しかし、口から出るものは、心から出て来ます。それは人を汚します。

マタイ 15:19 悪い考え、殺人、姦淫、不品行、盗み、偽証、ののしりは心から出て来るからです。

マタイ 15:20 これらは、人を汚すものです。しかし、洗わない手で食べることは人を汚しません。」

人の言うことを鵜呑みにしないでください。実を調べてみてください。

自分が何に手を出しているのか知る必要があります。そういうわけで、牧師による結婚準備カウンセリングが強く奨励されています。これを必須とする教会も少なくありません。それは、自分がどこに足を踏み入れようとしているのか知るためです。

イエスはこうおっしゃいました。

マルコ 10:8 ふたりは一体となるのです。それで、もはやふたりではなく、ひとりなのです。

マルコ 10:9 こういうわけで、人は、神が結び合わせたものを引き離してはなりません。」

結婚は、人生最大の決断と言えるでしょう。それは、二人の人が結婚する時、ふたりが一体となるからです。それは、別つことのできない一生のものと神が図られた関係です。

日本で初めて結婚式に行った時のことを今も覚えています。スーツにネクタイでエイミーと一緒に結婚式に行きました。到着するとすぐに、アメリカの結婚式とは違う点に気がつきました。男の人たちがみんな淡い色のネクタイを着けていたのです。私一人が黒ネクタイでした。皆さんもご存じかもしれませんが、日本では黒ネクタイはお葬式のときに着けるものです。私は、どうして誰も言ってくれなかったのかと、恥ずかしくなりました。けれども少し考えて、これはふさわしい服装だと思いました。というのも、結婚はあらゆる意味で独身の自分の死だからです。

「ふたりは一体となるのです。それで、もはやふたりではなく、ひとりなのです。」

人生における独身の時代は過ぎ去り、もう二度と戻りません。もちろん、離婚や死別によってひとり身に再びなる可能性はありますが、本当の意味での「独身」には二度と戻らないのです。

「隣の芝生は青い」ということわざをご存知でしょうか。自分の今置かれた状況に不満がある状態を言い表しています。

人間関係で言えば、独身の人は隣の芝生を見て、結婚して子どものある人はいいなあとと思います。一方、子持ちの既婚者も隣の芝生を見るのです。そして、いろんな義務や責任がない独身はいいなあとと思います。若い時は早く大人になりたい、年が増すと若いころに戻りたいと思います。人生のどの地点でもそのように思い、とめどがありません。

「隣の芝生は青い…満ち足りていない人にとっては」

そうではありませんか。満ち足りた人は、隣の芝生がどんな様子か気にもなりません。

1 テモテ 6:6 しかし、満ち足りる心を伴う敬虔こそ、大きな利益を受ける道です。

あなたは満ち足りていますか。あなたが今置かれた状態で、満ち足りていますか。独身、既婚者、離婚経験者、死別、またはそのいくつかに当てはまる人、どれであっても、まったく正直に、私は満ち足りていると言えますか。

聖書は、満ち足りることについて多くを語っています。

ヘブル 13:5 金銭を愛する生活をしてはいけません。いま持っているもので満足しなさい。主ご自身がこう言われるのです。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」

金銭を愛する、または貪欲であることは罪であり、満足の反対です。

結婚したいと思うのは悪いことでしょうか。もちろんそんなことはありません。子どもがほしいと思うのは悪いことでしょうか。もちろんそんなことはありません。

しかし、何かをほしいと思うことと不満を持つということは違います。不満があると貪欲になりやすいのです。それが問題です。ですから、私たちは気をつけていなければなりません。

伝道者の書 3:1 天の下では、何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある。

今のあなたはどのような時期にいるでしょう。さらに、クリスチャンとしてどのような営みに召されているでしょう。

今あなたは独身ですか。なぜでしょう。何のために今独身にされているのでしょうか。あなたのすべきことは何でしょう。

今あなたは結婚していますか。離婚しましたか。死別しましたか。そのいくつかにあてはまりますか。どれにせよ、同じ質問をすることができます。何のために今の状態にあるのでしょうか。あなたのすべきことは何でしょう。

このように考えてはどうでしょう。

想像してみてください。神があなたの人生に、独身や既婚者などそれぞれの時期を一定期間に限って与えてくださっているとしたら。それぞれの時期を象徴するコップがひとつずつあって、あなたはそのコップを満杯にするのに、一定の時間しか与えられていません。時間切れになるとそのコップは取り去られ、もう二度とそのコップを満たすことはできません。

そう考えると、独身の人は、独身の時間は限られていて、独身であることのもたらす祝福でそのコップをいっぱいにする時間も限られています。それなのに、結婚などの次のコップばかりに気を取られていると、この尊い時期をふいにしてしまいます。本当なら、充実した独身生活を生きられたはずなのです。

やっかいなことにそういう人は、時間切れになり、結婚など新しいコップが与えられると、何かやり残したことがあると感じるようになり、独身のコップを振り返り始めます。どうしてでしょう。できる間にできるだけそのコップを満たさなかつたからです。

そうして虚しさや不満が募り、過去を振り返ってもしょうがないこともわかっているので、ふたたび次を探すのです。次の芝生、例えば子どもです。二人だけの大切な時間が与えられる限り生かして、子どものいない結婚生活のコップを満たさないと、ふたたびあなたのコップは満たされないままに新しい人生の時期へと移ることになります。過去のコップは空（から）のままです。ずっとその繰り返しです。人生の地点について語るとき、不満はわざわざいいます。今ここにいるあなたのために、神が備えてくださった多くの祝福を奪い去ってしまうのです。

イエスが園で祈られたように、多くの人も祈ります。「主よ、この独身という杯を私から取り除いてください。」けれども、気をつけて祈ってください。主が一旦それを取り除かれたら、もう二度と戻っては来ないのです。

そのことを覚えつつ、自問してみてください。

私のコップは満杯だろうか。私は次の時期に進めるほど十分満ち足りているだろうか、と。

パウロは牢からこのように語りました。

ピリピ 4:11 乏しいからこう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。

私は高校時代、レスリング部に所属していました。練習中、卒業生がやってきて練習に参加することがしょっちゅうありました。先輩たちはレスリングが好きなので、なつかしいわけです。それで、仕事の休みが取れると、古いレスリング・シューズをひっぱり出し、母校で後輩たちとレスリングすることで、いい汗をかくのです。

先ほども言ったように、こういうことはしょっちゅうでしたが、ひとりの中年男性が練習に参加したある日のことは今もよく覚えています。その人の顔や名前は覚えていませんが、とても強い人だったことは覚えています。でも、耐久力はありませんでした。練習にやってきた他の卒業生同様、その人も体がなまっていたのです。数分レスリングをした後、そこに座って息を整えようとしていた彼は、私にこう言いました。「わからないだろうけど、ここでこうしてられる君は幸せだよ。僕には妻と子どもがいる。家のローンもある。働かないといけないんだ。君のような高校生に戻れたらどんなにいいか。」今もこの言葉が忘れられません。「悲しすぎる・・・この人のようにはなりたくない」と思ったのを覚えています。

私はずっとこのことを忘れませんでした。昔を惜しんでいるばかりの悲しい中年にはなりたくないと思いました。自分でも気付かないうちに、その人の言葉が私を変えました。その時から、自分の置かれた時期を最大限に楽しみ、満ち足りようと努力するようになりました。あの中年男性のように、昔を振り返って後悔しなくなかったからです。

数年後クリスチャンになり、うれしいことに、この姿勢が聖書の教えにかなっていることを知りました。使徒パウロはこう言っています。

ピリピ 3:13 兄弟たちよ。私は、自分はすでに捕らえたなどと考えるはいません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、

ピリピ 3:14 キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目ざして一心に走っているのです。

これはすばらしいアドバイスです。後ろを振り返っても仕方ありません。もうそれは過ぎ去って、戻っては来ないのですから。

今あなたが置かれたこの時期を生かして、主があなたに何を望んでおられるか示していただきましょう。そして、めいっぱい生きましょう。

1 テモテ 6:6 しかし、満ち足りる心を伴う敬虔こそ、大きな利益を受ける道です。

これはまさに真理です。皆さんが神のみことばをそのまま受け入れてくれますように。そして、自分の人生にその真理を適用できるよう、主に助けていただきましょう。

主の祝福が皆さんにありますように。祈りましょう。